

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

1いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

① 一人一人の児童生徒の尊重	② 道徳・心の教育の充実	①「一人一人の児童生徒の尊重」では、児童、保護者、教職員とも昨年度同様の結果であった。教職員は、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が100%であり、保護者は、「どちらかといえばそう思わない+そう思わない」の否定的回答が減っていた。(12%→8%) ②「道徳・心の教育の充実」では、保護者は「そう思う+どちらかといえばそう思う」の肯定的意見が上がり(88%→91%)、「どちらかといえばそう思わない+そう思わない」の否定的回答が減っていた。(12%→7%) 今年度は、心の教育の充実に向けて、全校で「人権にのき」などに取り組み、学校便り、学級だよりで知らせたので、今後も全校での取り組みを継続させていきたい。
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。 	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けて努めていると思いますか。 	

2確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

③ 授業力向上	④ タブレット端末活用	③「授業力向上」では、児童は昨年度同様の結果であったが、教職員、保護者の「そう思う+どちらかといえばそう思う」の意識が上がっていた。特に、教職員は100%であった。(教職員90%→100%、保護者88%→93%) ④「タブレット端末活用」は、本年度新たに加わった項目である。「そう思う+どちらかといえばそう思う」の回答は、教職員は100%、児童、保護者も90%を超えていた。今年度は、12月のタブレット活用の研究発表会に向けて4月から取り組んでいて、その成果が大きく表れたものと考えている。今後も引き続き取り組んでいきたい。
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。 	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。 	

3教員が子どもと向き合うための体制の整備

⑤ 学校の支援体制	⑥ 共生社会を担う人材の育成	⑤「学校の支援体制」は、教職員は昨年度と同様の結果であり、「そう思う+どちらかといえばそう思う」で100%であった。保護者も「そう思う+どちらかといえばそう思う」で昨年度より上がっていた。(87%→92%) ⑥「共生社会を担う人材の育成」は、今年度新設項目である。「そう思う+どちらかといえばそう思う」で教職員、保護者は100%、児童は94%であった、交流及び共同学習が、相互理解につながっているという意識が高い。これまでも、校内はもちろんのこと、保護者にも児童の学校の様子を知らせ、共通理解のもと連携を図ってきたが、今後も引き続き協力して取り組んでいきたい。
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。 	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。 	

4学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

⑦ 安全と事故防止	⑧ 家庭や地域との連携協力	⑦「安全と事故防止」では、児童、保護者は昨年度と同様の結果であったが、教職員は「そう思う」で昨年度より意識が上がっていた。(41%→60%) ⑧「家庭や地域との連携協力」でも、児童、保護者は昨年度同様の結果であったが、教職員は「そう思う」で昨年度より意識が上がっていた。(33%→53%) 新型コロナウイルスの影響で、昨年度は授業参観をはじめ保護者に学校に来ていただく機会も少なかったが、今年度は対面での授業参観も12月に実施した影響もあると思われる。今後も引き続き家庭や地域と連携協力して取り組んでいきたい。
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。 	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。 	

本校の教育

⑨ 返事やあいさつ	⑩ 家庭学習の習慣化	⑨から⑫は本校独自の項目である。 ⑨「返事やあいさつ」では、楠中校区で「立ち止まりあいさつ」の実践に取り組んでいて、児童と保護者の評価は高く、これからも実践を続けていきたい。 ⑩「家庭学習の習慣化」では、保護者、児童、教職員ほぼ同じ評価で、「そう思う+どちらかといえばそう思う」が約8割であった。各学級、宿題を毎日出し、家庭でも取り組まれている成果が出ていると思われる。ただ、「どちらかといえばそう思わない+そう思わない」の回答も約2割ほど見られるので、今後も繰り返し声かけを行ってきたい。 ⑪「早寝・早起き・朝ごはん」では、「すこやか週間」など家庭からの協力もあり、保護者、児童、教職員同様の結果であった。児童の実態から睡眠時間が短い課題があり、今年度の学校保健員会で5、6年生が全員参加して話し合った。SNSやゲームの使い方も含め、今後も指導を行っていく。 ⑫「タブレットの使い方」では、学習での活用が増え、できることが増えてきた反面、使う時間帯が遅くなったり、学習に関係のないことで使ったりしているところも見られる。使い方については、個への対応が中心になるので、タブレットを適切に使えるようになるために、家庭の協力も得ながら取り組んでいきたい。
子どもたちは、はきはきとした返事や明るいあいさつに取り組んでいると思いますか。 	子どもたちは、家庭学習が習慣になるように取り組んでいると思いますか。 	
⑪ 早寝・早起き・朝ごはん	⑫ タブレットの使い方	⑪「早寝・早起き・朝ごはん」では、「すこやか週間」など家庭からの協力もあり、保護者、児童、教職員同様の結果であった。児童の実態から睡眠時間が短い課題があり、今年度の学校保健員会で5、6年生が全員参加して話し合った。SNSやゲームの使い方も含め、今後も指導を行っていく。 ⑫「タブレットの使い方」では、学習での活用が増え、できることが増えてきた反面、使う時間帯が遅くなったり、学習に関係のないことで使ったりしているところも見られる。使い方については、個への対応が中心になるので、タブレットを適切に使えるようになるために、家庭の協力も得ながら取り組んでいきたい。
子どもたちは、早寝・早起き・朝ごはんに取り組んでいると思いますか。 	子どもたちは、夜9時以降は使わない、学習に関係のないことには使わないなどのルールに気をつけてタブレットを使っていますか。 	



来年度の具体的な取り組みについて

○昨年度に引き続き、コロナ禍の中、学校行事、PTA行事、地域行事等が中止となり、学校・家庭・地域の連携がなかなか思うようにいかなかった面もある。しかし、昨年度実施できなかった授業参観は、12月は対面での実施、それ以外はオンラインで実施した。また、学級懇談会も対面で実施し、保護者と学校の共通理解を図る場となった。熊本市・県の学校でも児童・職員の感染も見られ、校内では、咳エチケット・手洗い・うがい・マスク着用・体温測定など基本的な感染症予防対策を徹底していくとともに、家庭への周知を確実にを行い、全職員が危機管理の意識をもち対応に当たっていききたい。

○今年度は、タブレット活用の研究モデル校の指定を受け、12月の研究発表会に向けて取り組んだ。その成果が職員、児童の授業でのタブレット活用の結果に大きく表れていた。しかし、タブレットの使い方には使用時間等課題も見られるので、今後も引き続きタブレット活用と情報モラルの指導を行っていききたい。さらに、SNS上のトラブルやオンラインゲームでのトラブルも見られたので、家庭と連携をとりながら取り組んでいきたい。

○交通事故や大きなけががなかったのは良いことであるが、横断歩道の渡り方や、道の両側を歩くといった状況が見られる。自分の命を守る安全教育を進めていきたい。

○本校の教育において、返事やあいさつ、家庭学習の習慣化、早寝早起き朝ごはんについては、本校ばかりではなく、楠中校区全体で取り組んでいることでもある。今年度は、楠中の2小1中で合同保健委員会も開催し、校区全体で考えることができた。幼保小中連携で作成した「くすのきスタンダード」にも明記されている内容なので、来年度は、「くすのきスタンダード」の活用も図りながら取り組んでいきたい。

学校関係者評価

○コロナ禍の影響で学校行事等、カリキュラムが計画通りに進まず早く補いところだが、特に集団生活で学ぶ内容については、コロナ後にはぜひ復活させてほしい。

○不登校児童への対応で、学校が組織的な対応を行い、不登校児童の保護者だけの会を設けたことはとてもよい取り組みだ。

○あいさつや返事等、校区で出会う児童はよくできているが、道の歩き方など課題も見られるので、引き続き指導してほしい。

○生活習慣についての教職員と保護者の回答にずれが見られるが、教職員が全体を見て判断していることでその理由がわかった。